

特別講演 2

「RA 完全寛解にむけた治療戦略

—RISING Study から検証する—

慶應義塾大学医学部内科学教室 リウマチ内科 教授

竹内 勤 先生

RA 治療は、「全ての患者において臨床的寛解、もしくは、少なくとも低疾患活動性を目指す」ことが世界的なコンセンサスとなった。本邦においても、厚生労働省の研究班において臨床的寛解の維持を目標とし、ドラッグフリー寛解の可能性も視野に入れた関節リウマチの治療目標を提言している。

2008 年の ACR recommendation や 2009 年の ACR で EULAR と共同で提唱された診断（分類）基準は、早期に診断をつけ、速やかに MTX を開始し必要な患者には早期から抗サイトカイン治療を開始することを謳っているが、これらの治療目標を達成するためには、定量的な指標で厳格に疾患活動性を評価しながら治療を強化し速やかに寛解導入させるタイトコントロールの実践が重要ある。MTX・抗サイトカイン薬によるドラッグフリー寛解を視野に入れた治療戦略について、RISING など国内外のエビデンスを基に考えたい。